

(参考資料)フィリピン農業の概要と課題

◆フィリピン農業省 (DA : Department of Agriculture) の最新の現況

現在の農業大臣は、2022年に大統領に就任したボンボン・マルコス現大統領 (Ferdinand Romualdez Marcos, 通称「Bongbong Marcos」) が兼務。フィリピンは長年にわたり国内の農業生産性向上という課題を抱えており、マルコス大統領は課題の解決に強い意欲を示しています。マルコス大統領はルソン島の北イロコス州 (Ilocos Norte) を地盤としています。現在の副大統領は、ドゥテルテ前大統領 (Rodrigo Roa Duterte) の長女のサラ・ドゥテルテ (Sara Zimmerman Duterte-Carpio) 氏で、農業が盛んなミンダナオ島の南ダバオ州 (Davao del Sur) 出身です。なお、父親のドゥテルテ前大統領は、フィリピン独立後初のミンダナオ島出身の大統領でした。

前ドゥテルテ政権時に農業大臣を務めたウィリアム・ダール (William Dollente Dar) 氏は農業研究者で、インドの国際半乾燥熱帯作物研究所 (ICRISAT) に長年在籍していたことから、デジタル技術を用いた農業分野の生産性向上に積極的であり、農業省内に DA-ICTS (Information And Communications Technology Service) という専門部署を設立しました。この部署は、マルコス政権でも引き継がれています。

農業省には、一部の特定品目に特化した外局があり、ココナツ庁 (Philippines Coconut Authority)、国家乳製品庁 (National Dairy Authority)、国家たばこ庁 (National Tobacco Administration) などが設置されています。

◆フィリピンの地域・文化

フィリピンを大まかに分けると、首都マニラを中心とするルソン島 (タガログ語) と、ビサヤ地方からミンダナオにかけてのセブアノ語地域に分かれます。海で地域が区切られており、国内の輸送運賃が高額なことから、経済もルソン島、ビサヤ地域、ミンダナオ島で大きく分かれているのが特徴です。細かく見ると、各島に少数民族やそれぞれの文化があります。

◆農業生産を担うプレイヤー：輸出向け農業と国内向け農業

フィリピンの農業は、国内市場向けと輸出向けの2つに大きく分けられます。

輸出向け農業はパイナップル、バナナ、マンゴーなど、日本でも多く消費される果物類や、サトウキビ、ココナツなどがあります。2019年の財務省貿易統計によると、日本で販売されるバナナの80%¹、パイナップルの95%²がフィリピンからの輸入品です。農産物の日本以外の輸出先は中国、韓国、中東諸国など。

大規模農園は、栽培地の多くが南部のミンダナオ島に位置します。台風がほとんど来ないミンダナオ島はフィリピン最大の農業生産、大規模農園が多数存在しています。農園の経営は国際資本 (Del Monte, Dole など) と、ミンダナオ地元の有力者などの地元系企業。地元系企業でも数十~数百 ha の農園を経営する場合があります。ただし、近年の気候変動により、ミンダナオ島に

¹ <https://www.maff.go.jp/j/heyasodan/1201/01.html>

² <https://www.maff.go.jp/j/heyasodan/0210/04.html>

も台風が直撃する事態が発生しています。

輸出向け農業の農産物流通システムは通称「バナナポート」と呼ばれますが、非常に信頼性が高く、コロナ禍で中国の物流システムが混迷を極めた時期でも、バナナポートは概ね正常に作動していました。

現在のところで判明している輸出向け農産物の課題の一部は、以下のとおりです。

- ・バナナなどに広がる伝染病。現在、玉川大学農学部の渡辺 京子 教授を中心とする研究グループが、JICA（国際協力機構）と JST（科学技術振興機構）が運営する「SATREPS」というスキームで、バナナやカカオの伝染病の病害管理技術の研究を行っています³。
- ・農薬散布に用いる軽飛行機の石油消費削減。電動ドローンなどへの移行が考えられます。

また、リモートセンシング技術や IoT 技術を用いた、大規模農園の環境などの「見える化」も今後求められるものと見られます。

・国内向け農産物の課題

フィリピンは国内の内航運賃が高額で、経済圏がルソン島とビサヤ地方・ミンダナオ島に大きく別れています。JICA（国際協力機構）によると、フィリピンの国内向け農業の課題は下記のとおりです⁴。

- ・機械化の遅れや農業インフラ整備不足による低い農業生産性および低い農民所得
- ・高付加価値農業への転換の遅れ
- ・ポストハーベストロスを抑え加工・流通・販売等のプロセスにおいて付加価値を与えるバリューチェーンの構築
- ・農家の信用力や不十分な担保による限定的なローン等金融商品へのアクセス

マニラ首都圏に長年在住している日本人の方の情報によると、フィリピンでは野菜が非常に高価で、産地から大消費地であるマニラ首都圏に輸送される際に鮮度も落ちるそうです。

（畜産）

キリスト教徒（カトリック）が大半を占めるフィリピンでは、肉に対する宗教上の禁忌があまり存在しません。そのため、国内向けに大規模養豚などを行っている地元企業が存在します。畜産の地域と飼養動物については、別添の州別リストを御確認願います。

³ https://www.jst.go.jp/global/kadai/r0207_pilipinas.html

⁴ <https://minkanrenkei.jica.go.jp/area/card/26067/2IdVD1/M?S=ldobta0pat0k>

【参考文献など】

- ・農林水産省 フィリピン農業の概況

https://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/attach/pdf/index-8.pdf

- ・JICA 各国別課題シート 民間企業の製品・技術の活用が期待される開発途上国の課題
(課題シート No. 07-012-0136)

<https://minkanrenkei.jica.go.jp/area/card/26067/2IdVD1/M?S=ldobta0pat0k>

- ・JICA 報告書 フィリピン国 園芸作物におけるフードバリューチェーン改善プロジェクト（計画フェーズ）., 2022.10.

<https://libopac.jica.go.jp/images/report/P1000049715.html>

- ・フィリピン日本人商工会議所（マニラ）、ミンダナオ日本人商工会議所（ダバオ）への聞き取り

次頁以降、農林水産省が公開している「フィリピン農業の概況」を添付します。

※本資料は公募の参考に受託者が作成したものであり、農林水産省の公式見解を表すものではありません。

フィリピンの農林水産業概況

1. 農林水産業の概要

(1) 農林水産業の概況

- 人口は、約 10,665 万人（2018 年）。
- 農業生産は、コメ、とうもろこし等の国内向けの食料作物と、さとうきび、ココナッツ、バナナ等の輸出用換金作物に大別され、前者は小規模経営であるが、後者はスペイン、米国の植民地時代に形成された大農園が主体である。
- 主食の一つであるコメは、人口増加による消費量の増加、経済発展に伴う水田の転用などにより 1995 年から輸入している。



(2) 農林水産業の地位（2019 年）

（単位：億 US ドル、％）

	フィリピン		日 本	
	名目額	GDP 比	名目額	GDP 比
国内総生産 (GDP)	3,594	—	50,825	—
うち農林水産業	300	8.3	593	1.2
1 人当たり GDP (ドル)	3,324		40,063	

資料：国連統計

(3) 農地の状況（2019 年）

（単位：万 ha、％）

	フィリピン		日 本	
	面 積	比 率	面 積	比 率
国 土 全 体	3,000	100.0	3,780	100.0
農 用 地	1,244	41.5	440	11.6
耕地（除く永年作物）	559	18.6	412	10.9
永年作物地	535	17.8	27	0.7
永年採草・放牧地	150	5.0	—	—

資料：FAO 統計

(4) 主要農産物の生産状況

（単位：万トン）

	フィリピン					日 本
	2015	2016	2017	2018	2019	2019
さとうきび	2,293	2,237	2,929	2,473	2,072	116
コメ（粳）	1,815	1,763	1,928	1,907	1,881	1,053
ココナッツ	1,474	1,383	1,405	1,473	1,477	—
とうもろこし	752	722	791	777	798	0.01
バナナ	584	583	604	614	605	0.0006

資料：FAO 統計

2. 農林水産物貿易の概要

(1) 農産物貿易

○農産物輸出入上位5品目(2019年)

＜輸出＞ (単位:百万USドル、%) ＜輸入＞ (単位:百万USドル、%)

品目名	輸出額	シェア	品目名	輸入額	シェア
バナナ	1,953	33.0	小麦	1,847	13.8
やし(コブラ)油	873	14.7	大豆かす	1,176	8.8
パイナップル	328	5.5	コメ(精米)	1,145	8.5
たばこ	268	4.5	調製食料品	1,039	7.7
粗製生産品	260	4.4	コーヒー抽出物	654	4.9
総額	5,923	100.0	総額	13,417	100.0

資料:FAO統計 注:林・水産物を除く

(2) 我が国との貿易(2020年)

我が国からの主な輸出品は、半導体等電子部品、自動車、電気回路等の機器等であり、主な輸入品は、絶縁電線及び絶縁ケーブル、果実(バナナ等)、非鉄金属鉱等。
農林水産物貿易概況は、以下のとおり。

○農林水産物貿易の概況 (単位:百万USドル)

	輸出 (日本→フィリピン)	輸入 (フィリピン→日本)	我が国の 収支
総額 (A)	8,804	9,353	△549
農林水産物 (B)	145	2,058	△1,913
農林水産物のシェア (B/A) (%)	1.6	22.0	-

資料:財務省貿易統計

○農林水産物貿易上位5品目

＜輸出＞(日本→フィリピン) (単位:万USドル、%) ＜輸入＞(フィリピン→日本) (単位:万USドル、%)

品目名	輸出額	シェア	品目名	輸入額	シェア
合板	4,784	33.1	生鮮・乾燥果実(バナナ等)	88,976	43.2
さば(生鮮・冷蔵・冷凍)	1,184	8.2	やし油	3,282	1.6
製材	1,043	7.2	まぐろ缶詰	2,467	1.2
ソース混合調味料	674	4.7	パイナップル缶詰	1,595	0.8
たばこ	672	4.6	生鮮野菜	1,419	0.7
総額	14,450	100.0	総額	205,759	100.0

資料:財務省貿易統計